

# 学校経営の基本方針

紫雲寺小学校 校長 茂 呂 良 彦

## 1 学校経営の基本理念

現代の学校は、様々に変化する社会の中に位置付いている。

だからこそ、「不易と流行」は、学校教育の根底に脈々と流れている。

学校を「よりよい教育活動を通じて、よりよい社会を創る」という面から見ると、必要な教育内容を学ばせ、必要な資質・能力を身に付けさせる場といえる。

一方、学校を「よりよい教育活動を通じて、自己実現を図る」という面から見ると、どのように学ぶかを通して、自分で自分の進む道を選択し、自分の力で拓いていくちからの基礎を培う場といえる。

学校で営まれる様々な教育活動は、どちらか一方のように見えても、その一つ一つが有機的に結び付き、重要な意味をもつ。

紫雲寺地区の名を冠した「紫雲寺小学校」であることをふまえ、めざす人物像を次のように設定する。

**ふるさと紫雲寺を心の拠り所とする人。**

**愛するふるさとや、愛する人たちのために貢献しようとする人。**

## 2 学校経営の基本方針

### (1) 子どもの声を聴くことがすべての始まり

教育の原点は、子どもの声を聴くことである。

例えば、子どもの良くない行動を見掛けたとする。大きな声で叱責することも方法の一つである。しかし、その場やその人の前ではよくない行動は行われなくなるが、本質は変わらない。「どうしたの？」と尋ね、子どもの声を聴き、より良い行動やより良いやり方を共に探すことが、より良い方法である。

### (2) 教育活動で目指すこと

学校における全ての教育活動の礎にあるものは、親和的な人間関係である。親和的な人間関係をつくり、「知恵」と「努力」を身に付けさせていくことを、根源的に目指していく。

#### ① 安心・安全な場である学級・学校

児童が安心して生活できるための基本は、いじめや不登校などの未然防止である。

即時的、短・中期的、長期的な観点から、教育活動を推進することで、未然防止を図っていく。

また、安心して生活するためには、安全な環境が必要である。大胆な教育活動の中にも、繊細な安全への配慮が必要である。

## ② 知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する教育活動

学力向上は、目指す子どもの姿を具現するための重要な一面ではある。しかし、テストの点数が良ければそれで良いとしてしまったならば、子どもの総合的な資質・能力の向上は達成できない。子どもの実態を把握しながら、改善を続けていくことが重要である。

親和的な人間関係は、道徳教育・ソーシャルスキル教育・ピアサポートだけで形成できるものではない。前述は手段であり、日々の教育活動の端々に親和的な人間関係を形成する教育活動がある。

生きるために身体の健康は不可欠である。体力向上は、その一面である。平成31年度からの2年間は、睡眠時間の確保を重視する。

## (3) 罪を憎んで 人を憎まず

学校は失敗するためにある。最初から出来る子どもであれば、学校に来る必要は希薄である。失敗することを前提に、失敗を糧として成功に導くことが重要である。

何度も同じ失敗を繰り返す子どもも、中にはいる。当然「叱る」ことになる。「怒る」のではない。「怒る」は、教師のフラストレーション解消に過ぎず、「叱る」ことの前にある「ほめる」に到達しにくい。「ほめる」ところまでを想定して「叱る」のである。

## (4) 対応のスピード感は誠意の表れ

問題事案が発生した場合、スピード感のある対応が、誠意の表れと感じられる場合が多い。しかし、慌てて安直な対応をすると、問題が大きくなる。的確な情報の収集と判断、スピード感のある対応が必要である。まず、管理職に相談する。

## (5) 子どもは地域の宝

子どもは地域の宝であると言われる。保護者・地域住民だけでなく、教育行政、福祉関係者、医療関係者も、子どもの教育に深く関連している。ふるさと紫雲寺を心の拠りどころとし、愛するふるさとや愛する人たちのために貢献しようとする気持ちをはぐくむことが、地域の宝への道筋である。

## (6) ベクトルを揃えた教育活動を行う教師集団

年齢・性別・経験・教育観・指導技術の異なる教師集団だからこそ、できる教育活動がある。そのとき、最も重要なものが、向かう方向（ベクトル）を揃えることである。全校児童を全教師で育てるとき、全教師が同じ役割を果たすわけではない。ベクトルがそろっていれば、自ずと果たす役割が異なってくる。役割の「のりしろ」をつくれる人が重要である。

### 3 学校教育目標

「ともにのびよう」

### 4 目指す学校の姿

- ・ 児童 「生き生きと 学び合う学校」
- ・ 保護者 「信頼がもて 子どもを通わせたい学校」
- ・ 教師 「意欲に満ち 働きがいのある学校」

### 5 目指す子どもの姿（今年度重点目標）

**知育** めあてをもち 学び合い まとめをする子

**徳育** お互いを知り よさを認め合う子

**体育** 運動に親しみ 生活習慣を 改善向上する子

### 6 目指す教職員の姿

- ・ 子どもの声に耳を傾け、心の声を聴き取る教職員
- ・ 日々の授業を大切にし、授業改善を通して高め合っていく教職員
- ・ 家庭や地域との連携に努め、信頼を得る教職員

### 7 働き方改革を受けた学校評価の改善と業務改善

働き方改革の一環として、学校評価の「目標」項目数を減らす。元来、学校評価では、学校で行われている全ての教育活動と運営活動を評価しているわけではない。学校評価の「目標」項目数を減らすことは、教育活動の質を下げるものではない。教育活動の質は確保したうえで、学校評価の「目標」項目数を減らす。このことで、処理項目数を減らし、教育活動・運営活動にさく時間の増加を狙う。

働き方改革の一環として、満点主義からの脱却を奨励する。自らが取り組んでいる業務の、全てが満点になるような無理をしない。自らに自信をもち、業務に軽重と優先順位を付けて取り組む。

### 8 経営上の配慮事項

- ボタンの掛け違いにならないように。（始業式後、子どもとの出会いに向けて）
- 電気、ガス、灯油、水道、コピー、印刷、紙。全てに節約の気持ちを。バブルの時代は、部品を落として拾おうと探す時間より、新しい部品を使った方がコストや安いと考えられていた。今は、使えるものは、骨までしゃぶるのが原則、と考えられている。労働に対する価値観は、時代によって変わっていく。
- 双括型で、報告せよ。または、結論を最初に。

- 先に言えば説明 後で言えば言い訳。
- 説明すれば分かってもらえると考えるのは、浅はか。
- 御心配をかけて、申し訳ありません。
- 首から上の怪我は、保護者に連絡して対応を決めます。
- 初期対応こそ、丁寧に。
- クレーム対応では、相手が落ち着くまで、相手の間違いを指摘しない。
- クレーム対応では、相手が笑っていないのに、笑うと著しく相手の気分を害する。
- クレーマーであるか、ないかにかかわらず、「対応のスピード感」は、「誠意のあらわれ」である。
- 相手のために、このような配慮をしている、と感じ取らせること。  
お母さん、悪い話で申し訳ないです。
- こびとをとばせ。（相手の中に、自分の分身を投影し、相手の立場に立って考えると、より良い対応方法や解決方法が見付かる。）
- 電話は、魔物。名乗る。周りの声に注意。周りの人も注意。切り方にも配慮する。
- 他人と過去は変えられない。変えられるのは、自分と未来。
- 子曰わく、「過ちて、改めざる、是を過ちという。」と。
- 司会は、終着駅を見据えてコントロールする。難破船や山に登るような舟には、誰も乗りたくない。
- 先を見通す。こうなったら、次はこうなる。最悪の事態も考えて、そこまで対応できるようにしておく。
- 一瞬、時計を見てから、「実は、〇時には出発していなければならないので、お話はあと〇分しか聞くことができませんが、それでも良いですか？」
- 下手の考え、休むに似たり。
- エレベーター・ブリーフィング。
- 公務員の三大原則は、「公平」・「公正」・「公明」である。